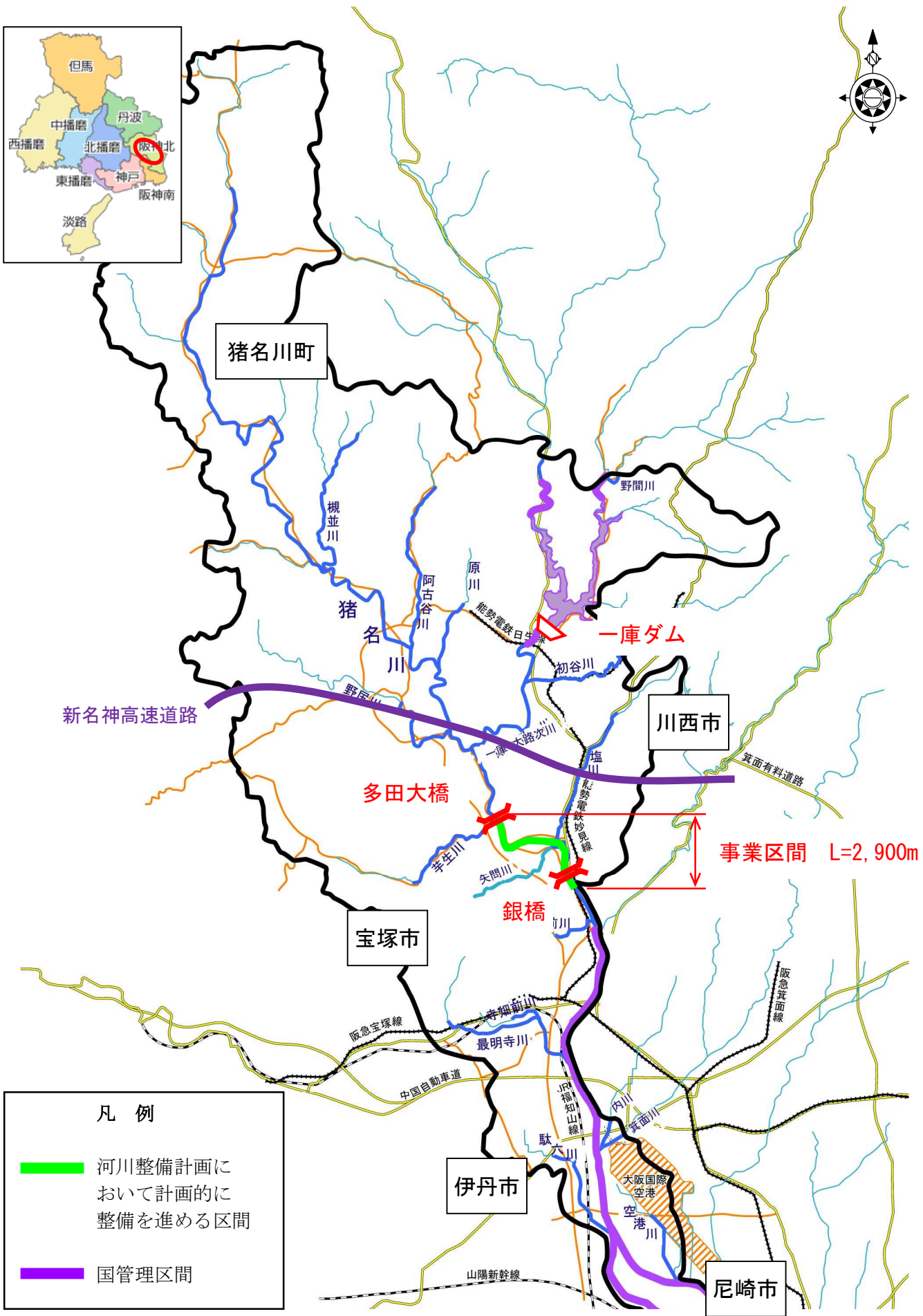


投資事業評価調書（継続：再評価〔第1回〕）

部課室名	県土整備部土木局 河川整備課	記入責任者職氏名 (担当者氏名)	河川整備課長 福田 嘉孝 (企画整備班主幹 森野 正之)	内線	4408 (4437)	
事業種目	河川事業	水系名	淀川水系			
事業目的						
河川整備計画（平成28(2016)年3月）に基づく流下能力を確保することにより、治水安全度を向上し、地域住民の安全・安心を確保する。						
淀川水系猪名川圏域河川整備計画における「計画的に整備を進める区間」						
本川						
区間	延長	整備目標流量		事業の状況	前回評価年度	
猪名川	2.9km	戦後最大の被害を発生させた昭和42(1967)年7月洪水と同程度の洪水(概ね20年に1回の確率で発生する降雨による洪水)を安全に流下	銀橋 1,400m ³ /s	事業中	H28(2016) 整備計画 策定報告	
事業概要および進捗状況						
				今回評価内容 (): 前回評価時点		
工区	事業区間	整備内容	評価対象区間の事業費	残事業費	進捗率	完成 予定 年度
			内用地補償費	内用地補償費	内用補進捗率	
淀川 水系 猪名川 圏域	猪名川	川西市鼓が滝～ 川西市多田院 河道改修2.9km 橋梁2橋	35億円 (30億円)	13億円 (30億円)	63% (0%)	R7 (R5)
			5億円 (5億円)	4.5億円 (5億円)	10% (0%)	
水系計			35億円 (30億円)	13億円 (30億円)	63% (0%)	R7 (R5)
			5億円 (5億円)	4.5億円 (5億円)	10% (0%)	
事業を取り巻く 社会経済情勢等 の変化	当該区間では昭和42(1967)年7月梅雨前線による豪雨、昭和58(1983)年台風第10号、平成26(2014)年8月豪雨などにより発生した洪水により、甚大な浸水被害が発生している。また、近年、令和2(2020)年7月豪雨など、全国で記録的な豪雨による災害が頻発していることから、河川改修に対する要望も強く、事業の必要性は高い。					
	【前回評価時点からの事業計画の変更概要】 [事業費] 現地精査の結果、当初想定していた施工条件の変更による事業費の変更（5億円増） ・岩種の変更（軟岩→硬岩）に伴う掘削費の増額 ・護岸施工時の湧水に伴う仮設矢板工・地盤改良等の追加 [事業期間] 下記理由による事業期間の変更（2年延伸） ・銀橋の暫定開削（910m ³ /s）は完了しているが、整備計画目標流量（1,400m ³ /s）での開削の条件である安威川ダム（大阪府施行）の管理運用開始が令和5(2023)年度末に予定されているため、銀橋の開削に2年（令和6(2024)年度着手（令和7(2025)年度完了））を要すること ・御社橋架替えについて、地図混乱の処理や景観検討に関する関係機関協議に時間（2年）を要すること					

進捗状況	<p>[用地関係] こんにやく橋～御社橋の用地取得を実施中。</p> <p>[工事関係] ① 銀橋の暫定掘削（910m³/s対応）が平成29（2017）年度に完了した。 ② 多田大橋～御社橋の県道川西篠山線（現市道）の付け替え工事が平成29年度に完了した。 ③ 築堤・護岸については、銀橋～御社橋の整備（L=1.8km）を進めており、銀橋～こんにやく橋の整備（L=0.9km）は令和2年度に完了予定。 ④ 塩川橋は上下部工を施工中、御社橋は詳細設計を実施中。</p>		
評価視点	評価結果の説明		
審査会意見及び対応方針 (H28年度策定報告)	<p>【審査会意見】 銀橋から下流の景勝地（露岩）を保全すること</p>	<p>【対応方針】 岩盤を掘削する際は、現況の滞筋等を維持するよう努める等、景観に配慮した整備を行う。</p>	
(1) 必要性	<p>① 当該区間では昭和 42(1967)年 7 月梅雨前線による豪雨、昭和 58(1983)年台風第 10 号、平成 26(2014)年 8 月豪雨などにより発生した洪水により、甚大な浸水被害が発生している。また、近年も令和 2(2020)年 7 月豪雨など、全国で記録的な降雨による災害が頻発していることから、河川改修に対する要望も強く、事業の必要性は高い。</p> <p>【近年の主な浸水被害実績】 ※流域全体の実績 昭和 42(1967)年（床上 17,653 戸、床下 75,779 戸） 昭和 58(1983)年（床上 353 戸、床下 2,854 戸） 平成26(2014)年（床上3戸、床下18戸）</p> <p>② 多田地区の市街地、国道173号、県道川西篠山線・多田停車場多田院線、病院等を浸水被害から守るため、継続的な河川改修が必要である。</p> <p>③ 平成30(2018)年7月で異常洪水時防災操作を実施した一庫ダムでは、猪名川の河川改修の進捗を踏まえ、最大放流量を150m³/sから200m³/sに拡大した（令和元(2019)年6月）。一庫ダムの治水機能をより発揮させるには、さらなる最大放流量の拡大を可能にするための河川改修が必要である。</p>		
(2) 有効性 ・ 効率性 (事業執行環境)	<p>① 費用便益比：B/C=2.4 ② 河川整備計画を平成28(2016)年3月に策定済。 ③ 当該区間直下流の国管理区間の河川改修が進んでいるため、当該区間の河川改修の執行環境が整っている。 ④ 地元から早期事業完了の要望がある。 ⑤ 川西市と多田神社周辺の景観検討や用地交渉に連携して取り組むなど、事業促進に関して協力体制が整っている。</p>		
(3) 環境適合性	<p>河床の掘削に際しては、水質汚濁防止など適切な対策を行うとともに、岩盤を掘削する際は、現況の滞筋等を維持するよう努める等、景観に配慮した整備を行う。</p>		
(4) 優先性	<p>残事業区間には人家連担区域や国道173号、県道、病院等があり、流下能力不足による浸水被害が想定されている。</p>		
の再 結果 評価	継 続	理 左 由 の	<p>事業の必要性は、事業採択時と変わっておらず、地域住民の安全・安心な生活環境を確保するため、事業を継続する必要がある。</p>

淀川水系猪名川圏域河川整備計画 全体位置図

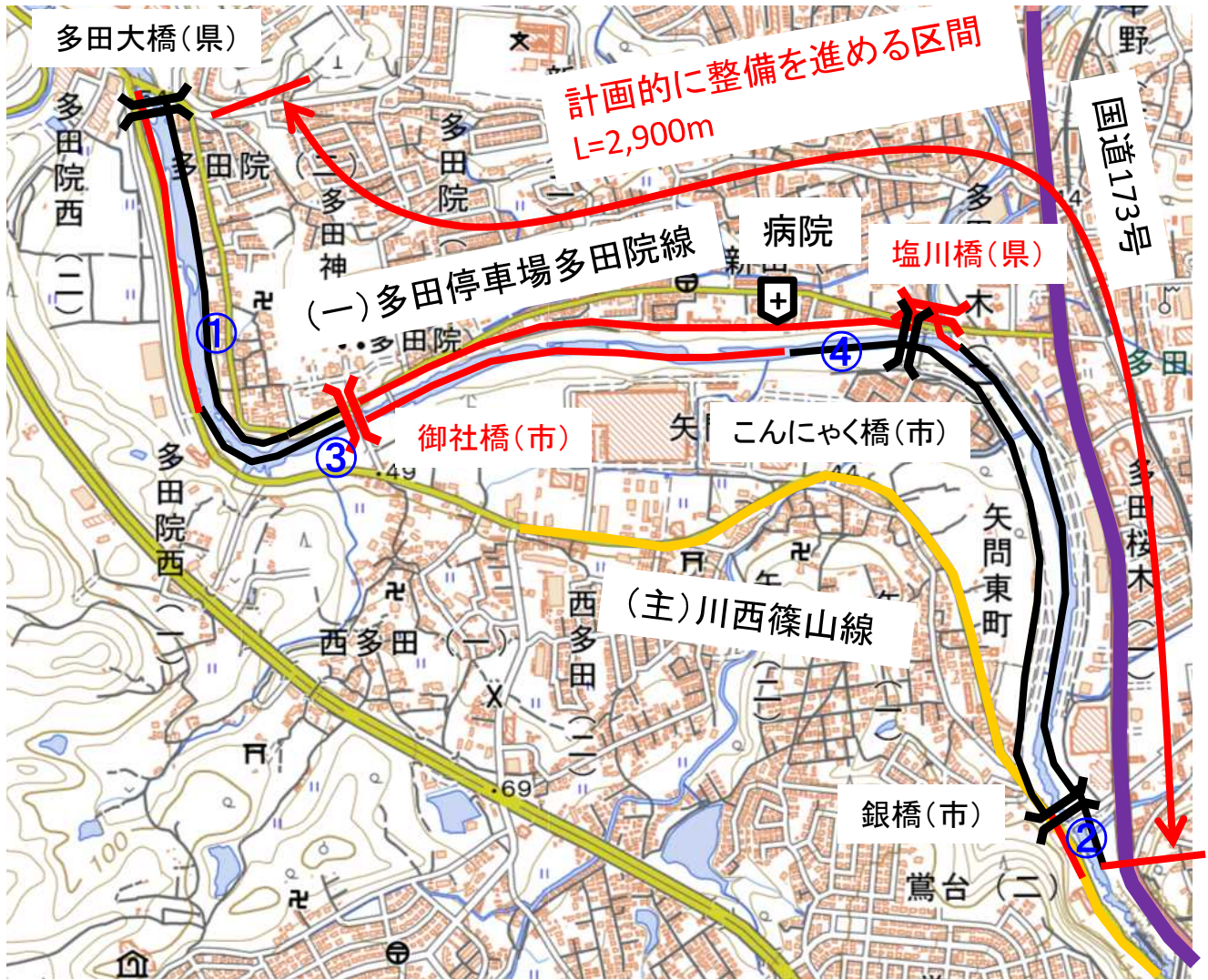


凡例

- 河川整備計画において計画的に整備を進める区間
- 国管理区間

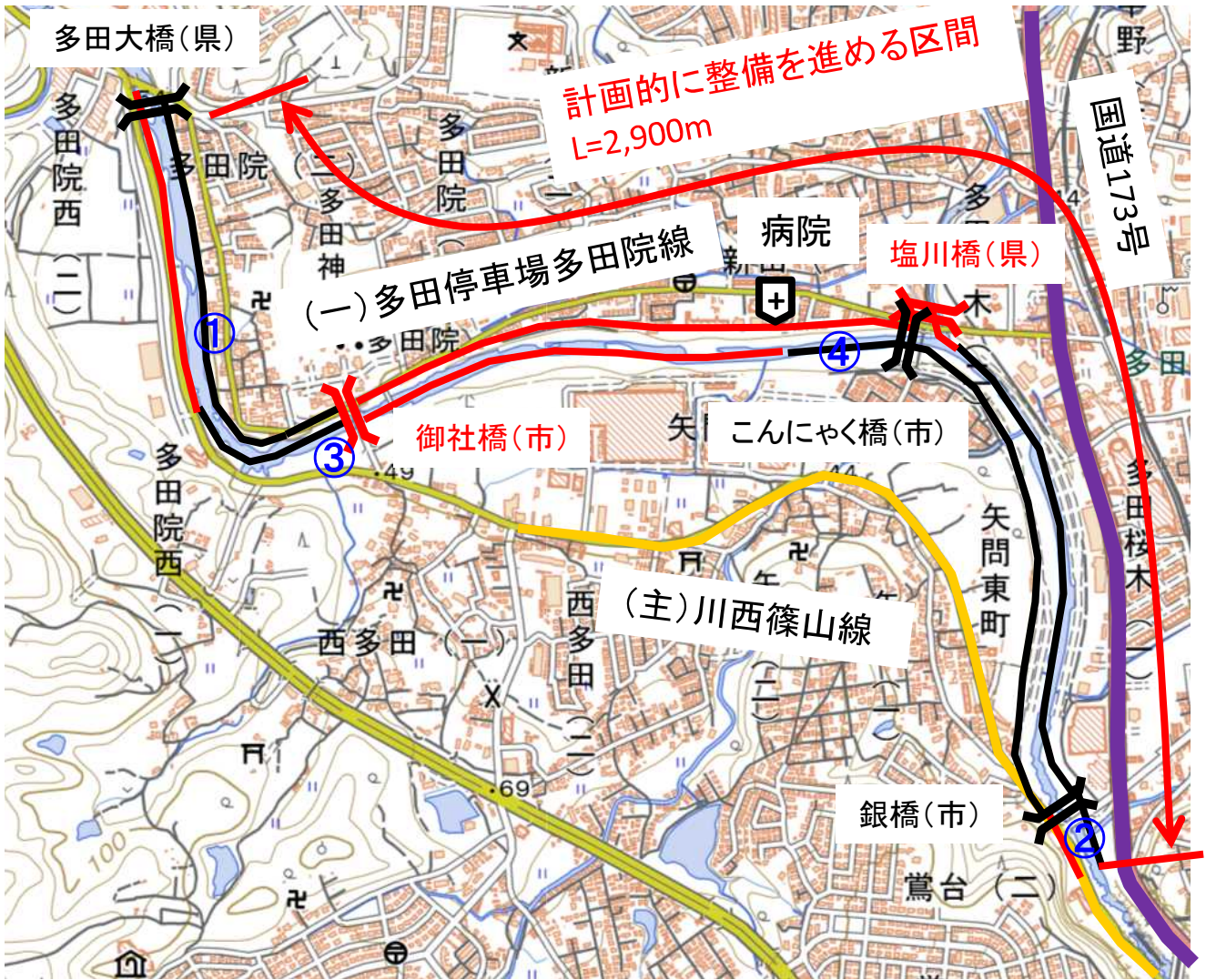
事業区間 L=2,900m

淀川水系猪名川圏域 事業進捗状況概要図



工区	全体	過去5年間	今後5年間
猪名川	H28(2016)～R7(2025)年度 【事業費=35億円】 ・整備延長 L=2,900m ・整備概要： 築堤、護岸、河床掘削、橋梁	H28(2016)～R2(2020)年度 【事業費=22億円】 ・築堤、護岸、河床掘削	R3(2021)～R7(2025)年度 【事業費=13億円】 ・築堤、護岸、河床掘削、橋梁
		段階的な流下能力の確保 [銀橋：910m ³ /s]	流下能力の確保 [銀橋：1,400m ³ /s]

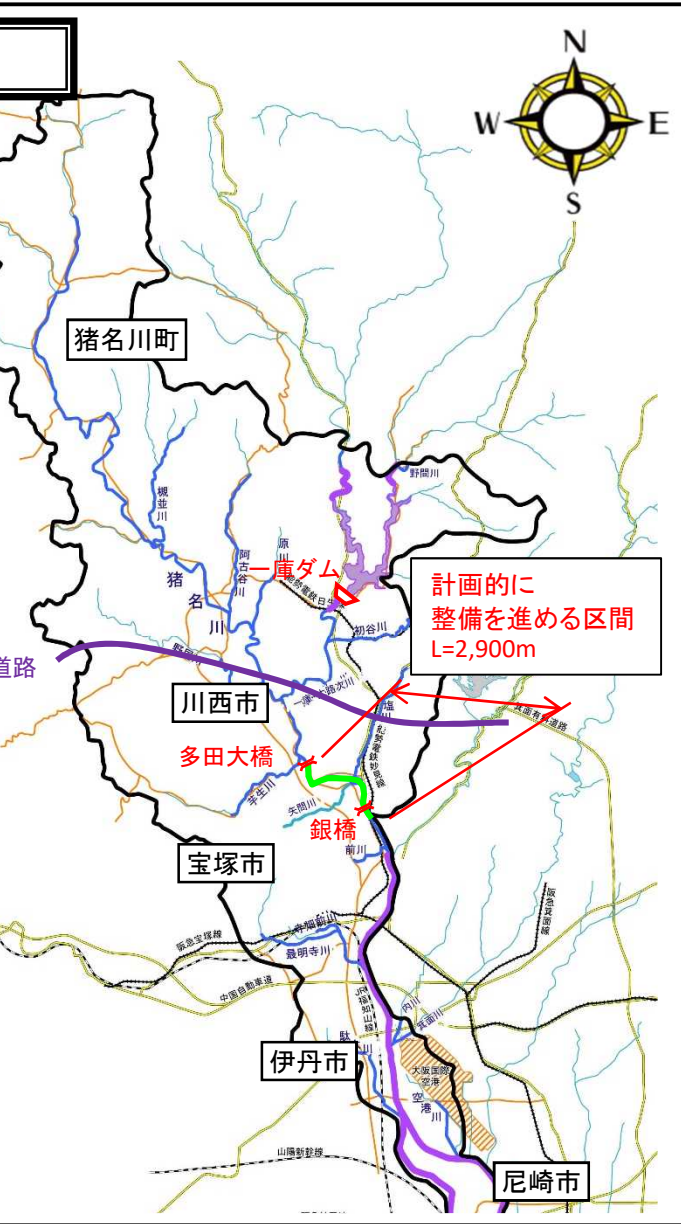
淀川水系猪名川圏域 事業進捗状況概要図



工区	全体	過去5年間	今後5年間
猪名川	H28～R7 年度 【事業費＝35 億円】 ・整備延長 L=2,900m ・整備概要： 築堤、護岸、河床掘削、橋梁	H28～R2 年度 【事業費＝22 億円】 ・築堤、護岸、河床掘削	R3～R7 年度 【事業費＝13 億円】 ・築堤、護岸、河床掘削、橋梁
		段階的な流下能力の確保 [銀橋：910m ³ /s]	流下能力の確保 [銀橋：1,400m ³ /s]

河川事業 一級河川淀川水系 猪名川 (継続:再評価〔第1回〕)

位置図



目的

河川整備計画(H28.3)に基づく治水安全度の向上
 昭和42年7月洪水(戦後最大の被害)と同程度の洪水(概ね20年に1回の確率で発生する降雨による洪水)を安全に流下させる

事業概要

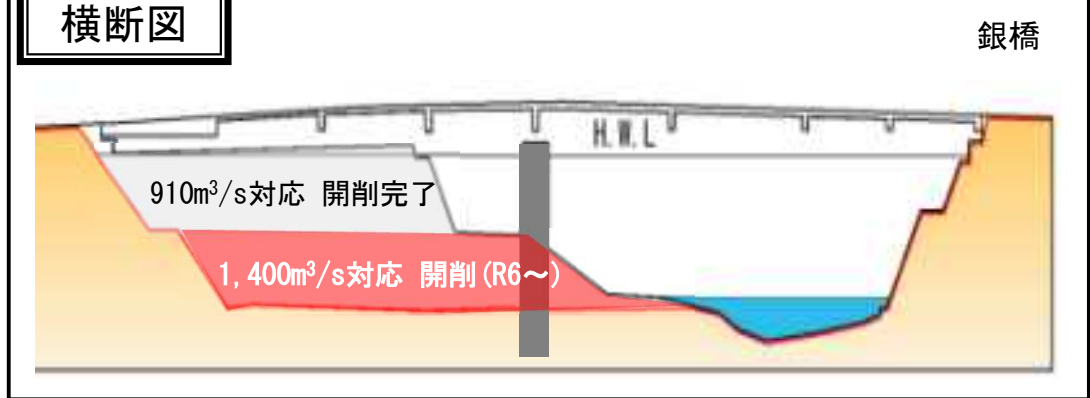
事業区間：川西市鼓が滝～多田院
 総事業費：35億円
 うち用地補償費：5億円
 事業期間：H28～R7
 事業概要：河道改修、橋梁2橋
 延長：2,900m
 費用便益比B/C：2.4

浸水実績

浸水実績(昭和58年台風第10号)

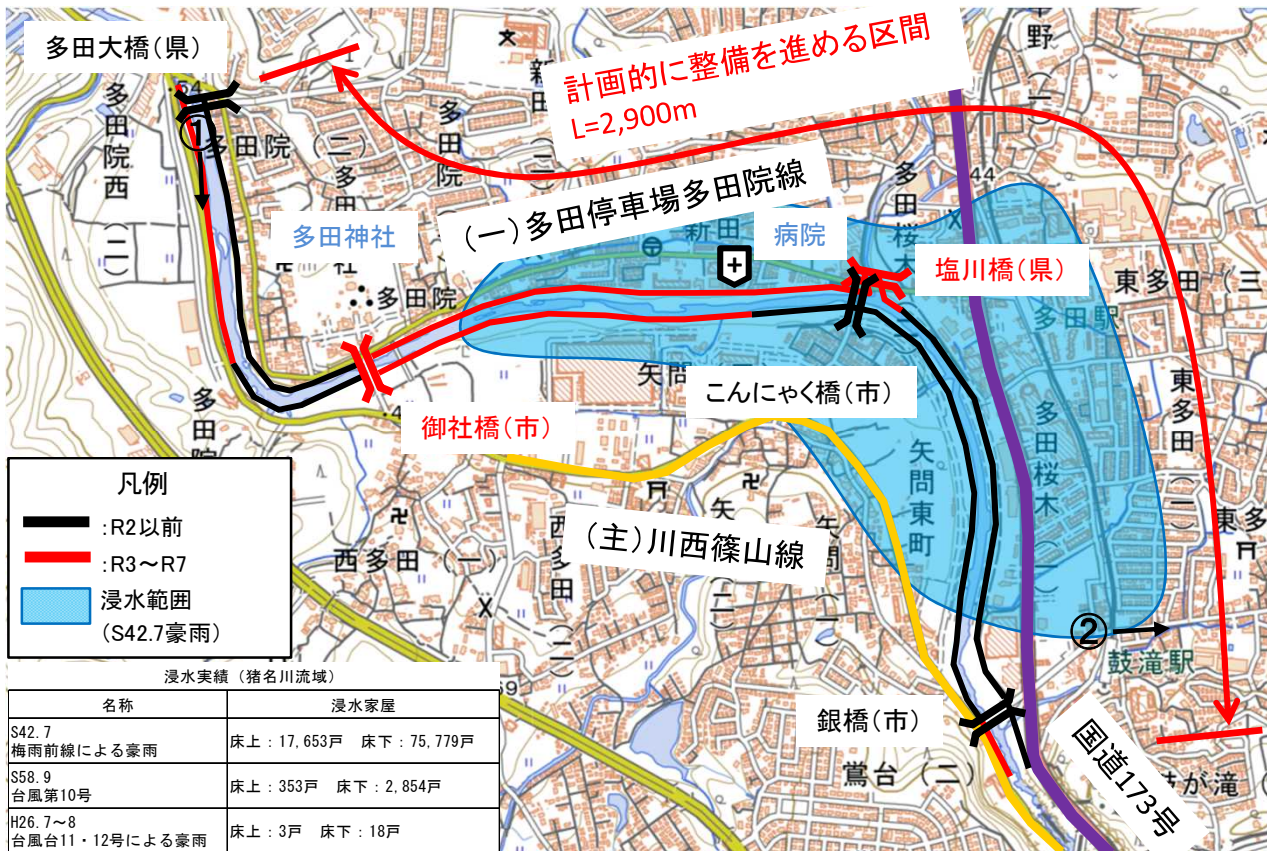


横断図



事業の必要性・優先性

- ①当該区間では昭和42(1967)年7月梅雨前線による豪雨、昭和58(1983)年台風第10号、平成26年8月豪雨などにより発生した洪水により、甚大な浸水被害が発生している。
- ②多田地区の市街地、国道173号、県道川西篠山線・多田停車場多田院線、病院等を浸水被害から守るため、継続的な河川改修が必要である。
- ③残事業区間には人家連担区域や国道173号、県道、病院等があり、流下能力不足による浸水被害が想定されている。



浸水実績

①浸水実績 (昭和58年台風第10号)

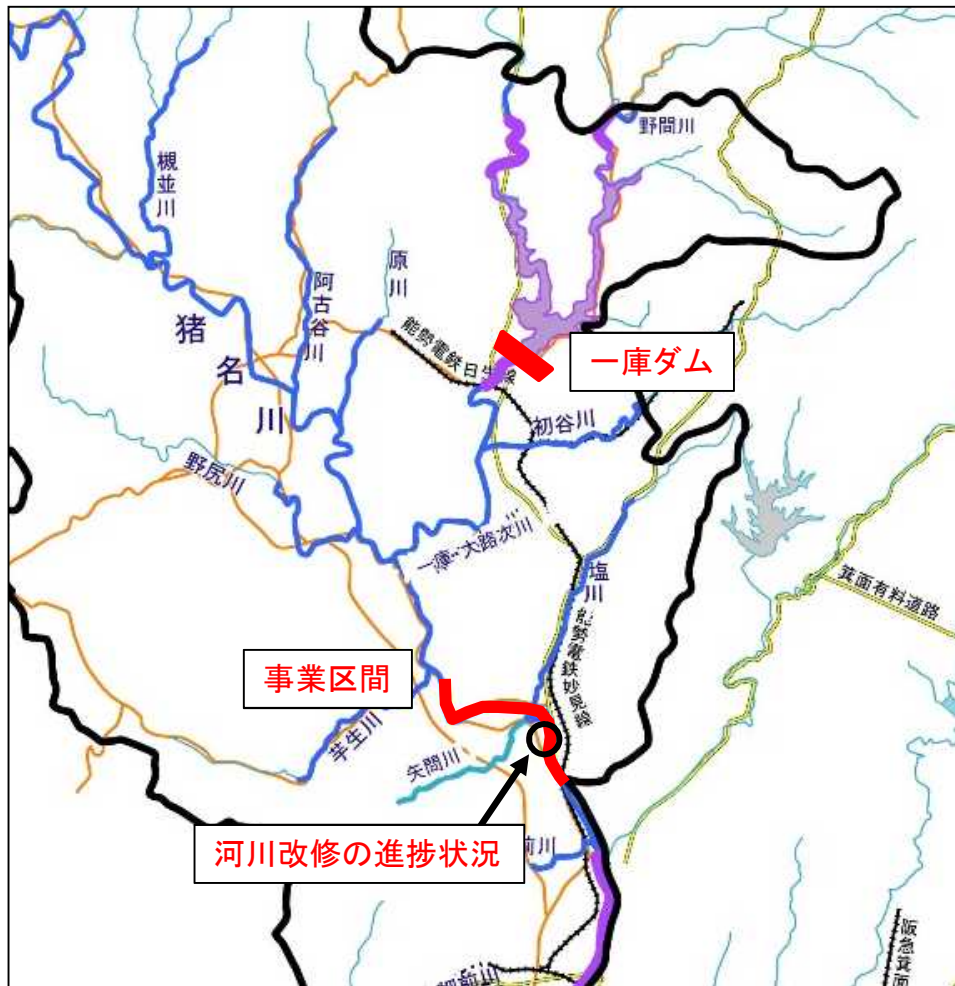


②浸水実績 (平成26年8月豪雨)

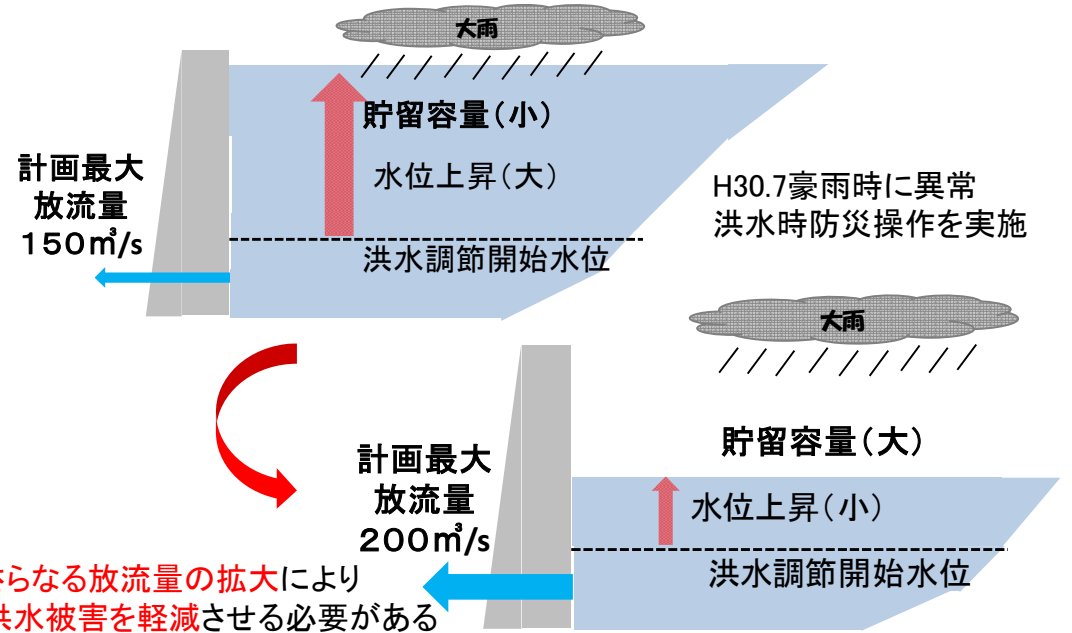


事業の必要性・優先性

④平成30年7月豪雨時に異常洪水時防災操作を実施した一庫ダムでは、猪名川の河川改修の進捗を踏まえて、令和元年6月から計画最大放流量を150m³/sから200m³/sに拡大した。洪水被害の軽減のためにはさらなる放流量の拡大が必要であり、そのために当該区間の河川改修が必要である。



放流流量の拡大による洪水被害の軽減

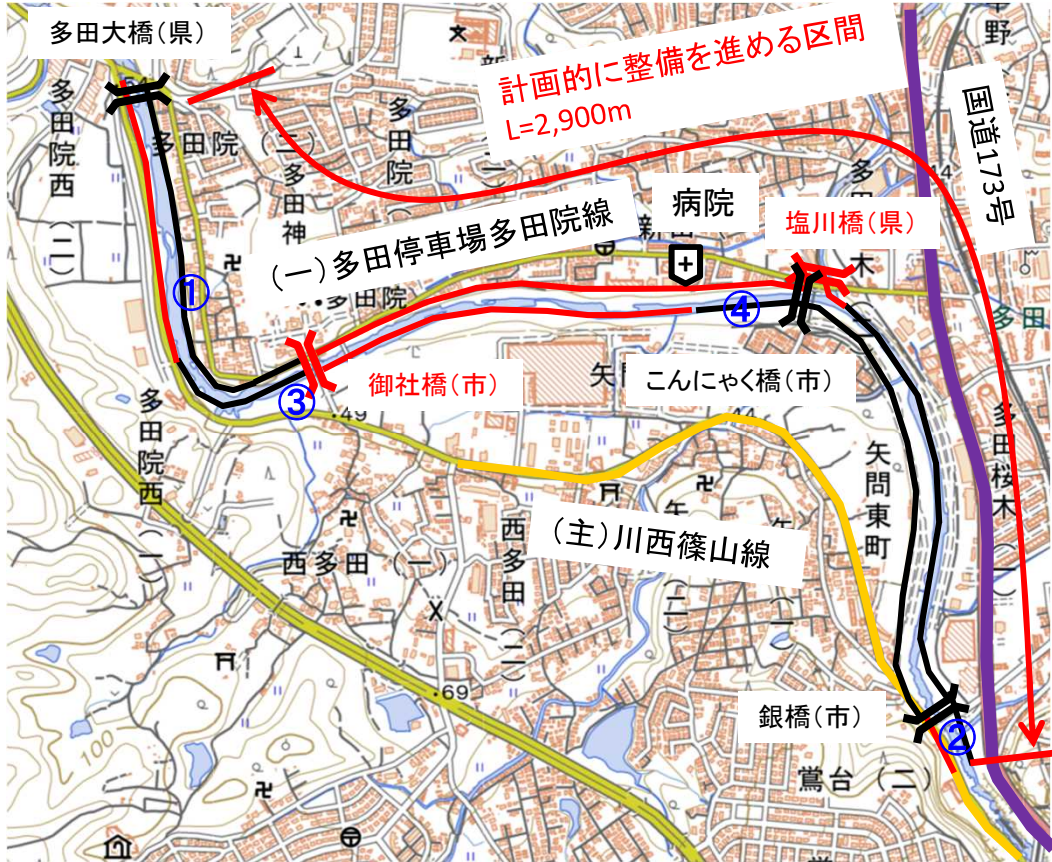
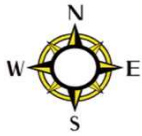


- ・令和元年9月より「事前放流(最大150万m³)」を実施
- ・令和2年5月には、さらなる洪水調節のため、事前放流量を拡大する治水協定を締結

河川改修の進捗状況



事業進捗平面図



- 凡例**
- : R2以前
 - : R3~R7
 - : 橋梁

出典: 国土地理院ウェブサイト

現況写真

①完成区間(多田大橋付近)



②暫定完成区間(銀橋)



③残事業区間(御社橋)



④残事業区間(こんにやく橋上流側)



工程表

- : 前回計画
- : 実施・計画

種別	H28	H29	H30	R1	R2	R3	R4	R5	R6	R7
築堤・護岸 河床掘削	[Blue bar]									
	御社橋~多田大橋		銀橋~こんにやく橋			こんにやく橋~多田大橋			銀橋開削	
橋梁 (塩川橋)	[Blue bar]									
			仮橋		架替		仮橋撤去			
橋梁 (御社橋)	[Blue bar]									
	用地調査		地図混乱の処理・景観等検討			用地交渉		仮橋		架替

事業の有効性・効率性

(1) 費用対効果

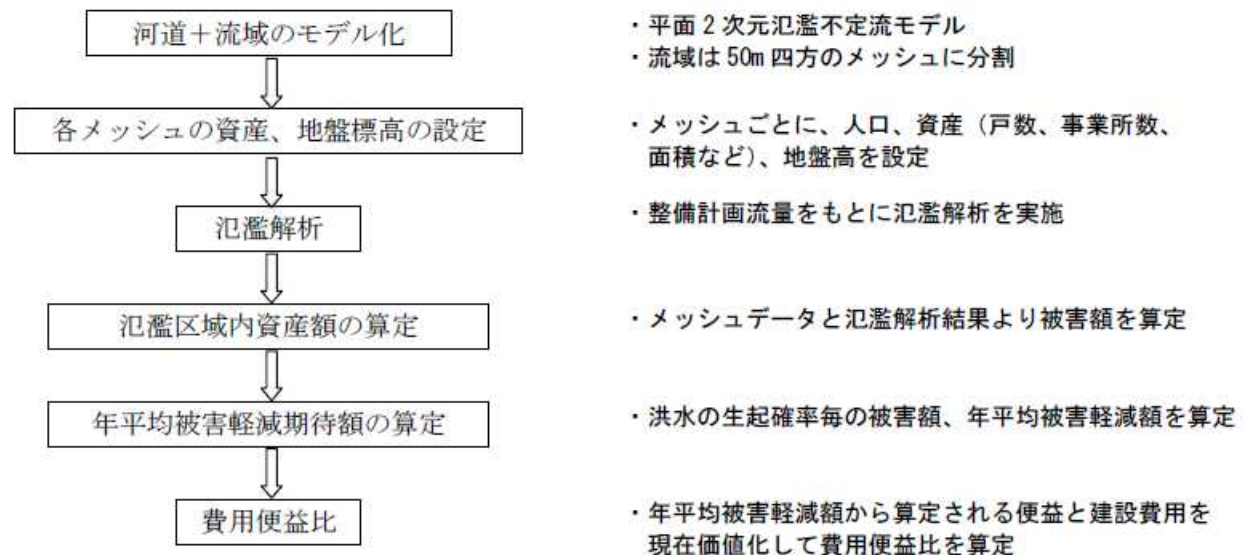
① 便益(B)の項目

評価の視点	効果項目(費用対効果の便益内容)
治水安全度の向上	浸水被害の軽減 { <ul style="list-style-type: none"> ・一般資産被害(家屋、家庭用品、事業所償却資産、農業家償却資産等) ・農産物被害、公共土木施設等被害、営業停止被害、応急対策費用 }

便益(B)の項目

1) 便益 = 治水事業を実施することによる被害軽減期待額を現在価値化被害額
 = 一般資産被害(家屋、家庭用品、事業所償却資産、農漁家償却資産等)
 + 農産物被害 + 公共土木施設等被害 + 営業停止被害 + 応急対策費用

2) 費用 = 「建設費 + 維持管理費」を現在価値化



② 費用便益比(B/C)算出根拠

B(便益)		C(費用)			B/C
便益額	代表的な効果	総費用	事業費	維持管理費	
3,038億円	計画規模の降雨に対して、浸水面積186ha、浸水5,793世帯の解消	1,281億円	572億円	709億円	2.4

(2) 費用対効果に含まれない効果

評価の視点	効果項目	該当する事業内容等
社会経済活動等の安定	人的被害の軽減	○ ・浸水区域内の人口を解消(15,508人)
	道路、鉄道等の交通途絶による波及被害の軽減	○ ・国道173号の交通途絶を解消(交通量38,033台/24h) ・主要地方道川西篠山線の交通途絶を解消(交通量10,062/24h台)
	医療・社会福祉施設、防災拠点施設、文化施設等の被害の軽減	○ ・ベリタス病院の浸水を解消(病床数199床)
	水害廃棄物の発生の軽減	○ ・水害廃棄物の解消
魅力ある河川空間の創造	多様な生物の生活環境の保全・再生・創出	○ ・岩掘削においては現況の滞筋等を維持するなど、露岩の景観を保全する。
	景観への配慮	○ ・多田神社周辺の改修にあたっては、周辺のまち並み整備とあわせ、良好な歴史的まち並み景観を創出する。

(3) 地域からの要望状況等

参考：事業の変遷

要望状況等	古くから地域住民の治水に対する意識が高く、治水対策の促進について強い要望が出されている。	<p>平成42年：梅雨前線(床上浸水17,165戸、床下浸水75,779戸)</p> <p>昭和58年：一庫ダム運用開始(現・独立行政法人水資源機構)</p> <p>昭和59年：総合治水対策特定河川事業着手</p> <p>平成6年：伊丹豪雨</p> <p>平成16年：台風第23号</p> <p>平成19年：淀川水系河川整備基本方針策定(国策定)</p> <p>平成26年：台風第11号</p> <p>平成28年：淀川水系猪名川圏域河川整備計画策定</p> <p>平成30年：銀橋暫定掘削(910m³/s)完了</p> <p>令和元年：一庫ダム放流量拡大(150m³/s→200m³/s) ：事前放流開始(150万m³)</p>
-------	--	--